

調査期間 2013年4月1日
～2014年8月15日

所在地 海老名市門沢橋

時代 近世・中世・奈良・平安・古墳
弥生・縄文

調査原因 中日本高速道路株式会社による
新東名高速道路建設事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査

遺跡位置 相模川左岸、JR相模線門沢橋駅の
北西約600mにある標高14m程の自
然堤防上



主な調査成果

中世、奈良・平安時代、古墳時代の遺構や遺物が発見されています。中世の遺構は土坑、井戸、溝状遺構が検出されており常滑（とこなめ）甕片、山茶碗窯系捏鉢（やまぢゃわんようけいこねばち）等が出土しています。奈良・平安時代では竪穴住居跡、土坑、溝状遺構等が確認されており、土師器（はじき）、須恵器（すえき）、土錘（どすい）が出土しました。弥生時代後期から古墳時代の遺構は竪穴住居跡、畝状遺構（うねじょういこう）が検出されており、竪穴住居跡からは土器が多く出土しました。



土坑（奈良・平安時代）



調査区西側古墳時代面全景



竪穴住居跡遺物出土状況（古墳時代）



畝状遺構（弥生時代末～古墳時代）